

「院長さん きいて！」への回答

「ずっと入院していてセブンティーンアイスが食べられません。お母さんに買ってきてもらったらとけてました。セブンティーンアイスが食べたいので病院内にセブンティーンアイスの自動販売機を設置してほしいです。お願いします。」
とのご意見に回答いたします。

お手紙を書いてくださって、ありがとうございます。

セブンティーンアイスの自動販売機の設置について調べました。残念なのですが、場所などの点で難しいということがわかりました。

病院の売店にも聞きましたが、セブティーンアイスは、仕入れることができないということでした。

売店では、季節で商品を入れかえています。美味しいアイスが見つかるかもしれません。

売店のアイスのコーナーも、見てみてくださいね。

病院の院長より

「院長さん きいて！」への回答

「4階病棟に入院していた時に子どものおしりが血が出て皮がむけていたり、子どもの為に買ったおしゃぶりにマスクのひもをくくりつけられていておしゃぶりが苦手になったりしてました。もう4階病棟には安心して子どもを預けられないと思いました。もう少し面会に来られない親の事を考えて欲しいです。」

とのご意見に回答いたします。

この度は、お子さんとご家族様に不快な思いをさせまして、申し訳ありません。

お申し出のありましたお子さんの状態は通常、入院中にあってはならないものであり、投書を拝見して心を痛めております。

またご家族様がいらした時には、入院中の状況を説明する必要がありました。それが十分にできておりませんでした。

ご家族様の不在の間に、様子が変わった場合には、小さなことであってもお気づきに

なられた段階で、速やかにお申し出いただきますようお願いいたします。

病 院 長

「院長さん きいて！」への回答

「子供の入院で付添いです。付添いで入院では、簡単に外出ができないので

- ・1ヶ月、2カ月に1回出張美容室
- ・売店に冷凍のご飯（パスタ・チャーハンなど）
- ・親子（3人）で泊まれる（クリスマス・正月など）特別な日があっても良いかなあコロナ次第だと思いますが…。

優しい・親切な看護婦さん達が多く、分からない事など、子供のためにたくさん良くしていただいています。ありがとうございます。」

とのご意見に回答いたします。

この度は、ご意見をありがとうございます。

「出張美容室」について、当院に理容室はありますが、こちらは長期入院の患者さんを対象に営業をしているものです。

「売店に冷凍のご飯」ですが、売店に確認したところ、少数になりますが冷凍食品の取扱いを検討しており、令和5年1月までに販売開始ができるよう準備中であるとの回答がありました。

また、ご家族様の宿泊については、職員駐車場の隣のマクドナルドハウスが利用可能です。どうぞご利用ください。

ご理解をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

病 院 長

「院長さん きいて！」への回答

「入院中、ipad で子供が動画視聴しています。その際、ネットのつながりが悪くしょっちゅう止まったり動画がなかなか再生されず困りました。可能であれば、ネット環境をもう少し整えてもらえるとありがたいです。Wifi がつかえると助かります。」

とのご意見に回答いたします。

Wi-Fi の導入につきましては、入院中のお子さんのメディア依存を助長する懸念があることや、導入・維持に高額な費用を要すること等から、これまで慎重に対応してきました。

しかし、コロナ禍の2年間で他医療施設におけるWi-Fi 導入が進んだこと等を受けて、当院でも患者さん向けWi-Fi を導入する方向で、現在検討中です。

病院におけるWi-Fi 導入の最大の目的は、入院中の患者さんの療養環境を改善することです。

しかしその一方で、心身の発達途中にあるお子さんの生活へのインターネット利用によ

る影響や、トラブルの発生等に配慮が必要であり、Wi-Fi運用のルール作りが大変重要となります。

そのため、実際の導入開始にはもうしばらくお時間をいただきますので、ご理解をお願いいたします。

病 院 長

「院長さん きいて！」 への回答

「前回の受診日より1ヶ月以上も過ぎての今日の受診なので、1ヶ月前の話になりますが、拓桃館の女性ドクターについてです。術後5日目での受診でした。いつもの担当のドクターと違い女性のドクターでした。27番の診察室に入ると、「今日は手術したところに貼っているボンドを剥がします」とのことでした。私たちも娘も聞いておらず、娘も心の準備ができていませんでした。まして、いつものドクターとは違ったので不安な気持ちもありました。娘が自分でボンドを剥がします。と言って娘なりに痛みをこらえながら、怖い気持ちをこらえながら頑張っ

て剥がしていました。しかし、手術の傷跡の近くになると気持ちが怖くなり、涙が出てきて手が止まってしまいました。そこで母親が娘にハンカチを渡すと娘がハンカチで涙をぬぐった瞬間、子どもに声をかけることもなくそのボンドをビリッと剥がしたのです。術後の傷跡からは出血し、娘も大泣きでした。その後、「もう私に会うことはないからね。次回の診察はいつもの〇〇先生だからね」と言われました。もう、診察しないからどんな方法で剥がしてもいいということなのではないでしょうか。がっかりでしたし、そのような発言はどのような意味からの発言

だったのでしょうか……。四時過ぎの受診で、診察時間も終わりに近づいていたので、早く終わらせたかったのでしょうが、話しをすればわかる年齢の娘です。きちんと話をしてから剥がしてほしかったです。また、傷跡から出血するような剥がし方はしてほしくなかったです。大人でもあのような剥がし方をされたら痛くて我慢できないと思います。そのボンドを剥がし、縫合テープを貼った後でも娘は泣いていたのですが、「どのくらい膝曲げれるようになった。曲げてみて。」痛くて曲げれない娘に「もっと曲げてみて。反対の足くらい。お母さんももう少し足を押してみてください。曲げてみて」と言われました。ドクターにしてみれば娘の手術や術後の診察は大したことない診察なのかもしれませんが、娘や家族にとっては大変なことです。今まで、何度か手術を受けたり入院したときに対応してくれているドクターやナースの皆さんはやさしかったので、さすがこども病院の職員の方たちだなあと思い、感謝していましたが、子どもの気持ちに寄り添った診察をしていただけないドクターの対応で、娘は「人間を信用できない」と言い、家までの1時間の車内では一言もしゃべりませんでした。ドクターにとってはいつものことで、大した手術には入らない手術なのかもしれませんが。退院するときにも、「切り傷ぐらいなもんだからね」と言われたので。こども病院です。拓桃館です。もう少し子どもに寄り添

い、子どもにわかる説明をしてくれたり、子どもが落ち着くまで時間をかけて待ってほしいです。」
とのご意見に回答いたします。

この度の診察について、担当医が不在であったことについて申し訳なく思っております。

また代替の医師の対応は、必要な診療行為ではあったものの、配慮不足であったことにつきまして、申し訳ありません。重ねてお詫びいたします。

いただいたご意見につきましては、医師間で共有し、よりよい診察ができるよう、指導してまいります。

病 院 長

「院長さん きいて！」への回答

「発達診療課 Y 先生待たせすぎにも程があります。こちらは待てない子を診さつしてもらいにわざわざきてるので！！」
とのご意見に回答いたします。

お子さんを連れての当院受診は、ご苦労が多くあったことと拝察いたします。お待たせしまして申し訳ありません。

医師は、次の診察の方のことを考慮しながら診療を進めております。

しかしながら、特に発達診療科はその内容ゆえに、時間通りに診療を終了することが難しい場合があります。

引き続き、待ち時間の改善に関して院内で検討を行ってまいります。こういった事情について、ご理解をいただけましたら幸いです。

「院長さん きいて！」 への回答

「大変お世話になっております。0才時より旧拓桃医療療育センターに通っていた、医ケアを要する重症心身障がいの保護者です。旧拓桃とこども病院統合の際、旧拓桃患者は年齢制限なく、ずっと診療するとのことでした。それは私のみならず、患者以外でも多くの方が記憶している事実です。しかし、いつの間にか18~20才で移行（というよりも切り捨て）の状況になっています。“ずっと診る”から“移行する”に変わることは、いつ、どのようなかたちで患者側に説明があったのでしょうか？重心については一般の成人医療では対応が難しく受入れ先も見つからない状況であることは先生方のほうがよくご存知のことと思います。複数科の診療・入院できる病院がない限り安心して移行できません。移行をすすめる前に、きちんと診療できる受入れ先を確保することが必要ではないでしょうか。それが難しいのであれば、約束どおり診療継続していただきたい。大切な命をあずけているのです。誠意が感じられる責任ある対応を強く望みます。私だけではなく困っているかたは多数いらっしゃいます。納得のいく回答を必ずお願いします。」

とのご意見に回答いたします。

この度は、大切なご意見をありがとうございました。

宮城県では、令和4年に移行期医療支援体制検討委員会という組織が発足し、重症心身障がい児・者も含んだ移行期医療支援の課題について検討が始まりました。今後、在宅医も含めた成人医療施設へのアンケート調査にて課題を抽出し、その結果を踏まえ、当院と県が一体となって、患者さん及びそのご家族様が、安心して医療を継続的に受けられるような体制作りを目指していきます。

当院は、現在も成人移行支援活動に取り組んでいますが、これは転院前提ではなく、自立支援等から始めることが、当院の成人移行指針にも明記されています。

実際、成人診療科の受け入れ先がほとんど無いような疾患領域もあり、転院を目標とはしていません。

しかしながら、成人になり年齢が上がるにつれ、成人特有の疾患（腫瘍性疾患等）や病態（高血圧・腎疾患等）を併せ持つことが多く、それらに対して、当院で十分な医療を提

供することが困難です。成人期を迎えた患者さんは、一人一人異なる背景をお持ちですので、最も適切な医療は何であるかを患者さんやご家族様と一緒に考えてまいります。

病 院 長

～感謝のお言葉をいただきました～

「愛知県から手術のために初めて仙台へ来ました。子どもはまだ1才、初めての飛行機、電車、コロナ禍、たくさんの不安はありましたが、病院に対しての不安は少なかったです。それは紹介状を送った後、脳外科の林先生がとてもていねいに対応してくださったおかげです。電話で手術の話、病気の話、手術の後の検診の話、とてもわかりやすく説明して下さいました。この先生ならきっと大丈夫だ！と初診で入院、手術という決断をしました。入院日初めて林先生にお会いしましたが、電話での対応と同じでとてもていねいに話をして下さいました。とてもわかりやすく、不安はなく手術を迎えることができました。ありがとうございました。病室もとてもきれいで広くてびっくりしました。大部屋で407-①ですと話しをされあー①ならカベとドアにはさまれたところかな・・・と思ったら①～④すべてにマドがついていてカーテンでしきっても広く使えることができ快適でした。愛知小児の2倍ぐらい広いんじゃない？とパパと話しをしていました。冷蔵庫もあり、病棟に保育士さんもいて、かんごしさんも優しく不自由なく過ごせました。ありがとうございました。」

この度は、ご丁寧に職員へのお言葉を
ありがとうございます。

遠方からお越しいただき、無事に退院され
たことを伺い、うれしく思っております。

いただいたお言葉は、職員にとっては日々
の励みとなっております。

今後もより良い医療と治療環境を提供でき
るよう努めてまいります。

病 院 長